

平成30年6月25日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16616

研究課題名(和文) ブータンにおけるニンマ派の初期的展開

研究課題名(英文) Early development of the Nyingma school in Bhutan

研究代表者

安田 章紀 (Yasuda, Akinori)

京都大学・こころの未来研究センター・研究員

研究者番号：40638607

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：ブータンにおけるニンマ派展開の最初期を代表する3人の人物、ロンチェンパ(1308-1363)、ドルジェリンパ(1346-1405)、ペマリンパ(1450-1521)に焦点を絞った上で、文献学的方法論によって、彼らがどのような思想を抱いていたかを解明し、これまで謎に包まれていたブータンにおけるニンマ派仏教の初期の様相が明らかになった。とりわけ、ドルジェリンパの代表的埋蔵宝典が、ロンチェンパの思想的源泉の一つとなった『カンド・ニンティク』に大きな影響を受けていたのを突き止めたことは大きな成果である。

研究成果の概要(英文)：This research is focused on the three representatives of the early development of the Nyingma school in Bhutan, namely, Longchenpa (1308-1363), Dorje Lingpa (1346-1405), and Pema Lingpa (1450-1521). I investigated their thoughts by means of philological study. Thereby the early age of the Nyingma school in Bhutan, which had been hidden, was revealed. In particular, it is noteworthy that Dorje Lingpa and Longchenpa are heavily influenced by mKha' 'gro snying thig in common.

研究分野：チベット仏教ニンマ派

キーワード：チベット仏教 ニンマ派 ブータン ロンチェンパ ドルジェリンパ ペマリンパ

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、チベット仏教の諸宗派中、国の内外を問わず、他宗派に比して大きく遅れをとっているニンマ派の研究が、チベット仏教研究の健全な総体的発展のために是非必要であると考え、研究対象として、ニンマ派中興の祖として名高い学僧ロンチェン・ラブジャンパ (Klong chen rab 'byams pa, 1308-1363, 以下ロンチェンパと呼ぶ) を選択し、文献学的手法に基づいて、彼の思想研究を進めていた。

研究を推進する中で、近年欧米で急速に進展して来つつあるニンマ派研究の豊富な成果を参照し、大きな便益を得た。しかし、現在のニンマ派研究には、大きな問題点が存在することにも気づいた。それは、研究者らの関心が、あくまでチベットにおけるニンマ派の思想・歴史にのみ集中しており、ニンマ派がチベットからブータンへと越境して、そこで独自の歴史を辿り、今日に至るまで大きな勢力を誇っている事実を看過している点であった。したがって、現在のニンマ派研究を進展させ、ニンマ派の全体像を不足なく完全に描き出すためには、ブータンにおけるニンマ派にも注意を払い、それを丹念に解明していくことが喫緊の課題であると考えた。

とはいうものの、ブータンにおけるニンマ派の歴史は長く、地域的な広がりも小さいものではない。よって、ブータンのニンマ派を総体として網羅的に解明することは長期的目標としては重要であるが、短中期的には具体的な道筋を付けにくい。その解決方法として、研究対象とする時代を小さく絞りこむことによって、範囲は限定的であれ、緻密な研究となることを目指した。すなわち、ブータンにおけるニンマ派の展開の最も初期を代表する3人の人物、すなわち、前述のロンチェンパに加えて、ドルジェリンパ (rDo rje gling pa, 1346-1405)、ペマリンパ (Padma gling pa, 1450-1521) に焦点を絞り込むと

いう着想に至った。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、国内外の学术界で現在まで看過されているブータンのニンマ派に大きく焦点を当てること、しかも、ニンマ派の初期的展開の様相を、ロンチェンパ→ドルジェリンパ→ペマリンパ という歴史的流れに沿って、系統だてて把握すること、である。

## 3. 研究の方法

方法論としては、文献学的手法を採用する。ほとんど全くと言ってよいほど内実が知られていないドルジェリンパおよびペマリンパの思想を、研究代表者の従来の業績などによって解明が比較的進んでいるロンチェンパの思想体系と比較しつつ、明らかにする。すなわち、ブータンで出版されているドルジェリンパおよびペマリンパの著作集を入手し、それらに対して1つ1つ綿密な読解・分析をほどこすという文献学的手法を採る。また、ドルジェリンパおよびペマリンパの歴史的事跡についても、将来の全貌解明に繋げるべく、文献調査を下準備として実施する。すなわち、ドルジェリンパの伝記や歌集、関連する歴史書の記述を収集し、読解を通して、彼の事跡を整理する。なお、ロンチェンパおよびペマリンパの伝記については、すでに詳細な先行研究があるので、それらを整理して、簡便な参考資料を作成する。

## 4. 研究成果

### (1) 1年次

チベット仏教を代表する4大宗派のうち、ニンマ派は、チベットからブータンへと越境し、そこで独自の歴史を辿って今日に至るま

で、大きな勢力を誇っている。ニンマ派の仏教をブータンに深く根づかせた功労者として、ロンチェンパ、ドルジェリンパ、ペマリリンパの3人が挙げられる。このうち、ドルジェリンパは、チベット生まれであるが、ブータンにまで頻繁に足を延ばしている。ドルジェリンパは、ブータンにおける隠棲修行や埋蔵宝（テルマ）の発見などを通して、現地に多くの信奉者・支持者を獲得したほか、併せて、現在まで存続する宗教的名門の家系を残して、ブータンの仏教史上に巨大な足跡を印している。

1年次は、未だほとんど内実の知られていないドルジェリンパの思想の一端を解明すべく、ブータンで出版された彼の著作群のうちから、「中有」を主題とするものに焦点を当てて、文献学的研究を行った。

その結果、彼が「中有」という言葉を、人間が経験する種々の中間的・一時的状況に広く適用し、4つに分類していること。その1つ「迷える生存の中有」において、死者は尋常ならざる光景に直面させられるが、それに翻弄されず、それを自分の心がひとりでの現れ出たものにすぎないと見極めれば、それらは自然と消失するに至ること。そして、死者はラマに導かれて四方の仏国土を巡歴し、中央に位置する大日如来の国土に滞在後、一瞬にして普賢父母尊の国土に化生し、そこで仏陀となって、もはや輪廻に戻ることはない、と考えていることなどが判明した。

研究成果は、日本印度学仏教学会第66回学術大会（2015年9月20日、高野山大学）において、「中有に関するドルジェリンパの思想」という題目で口頭発表した。なお、同内容の論文が『印度学仏教学研究』（第64号）にて公になっている。

## （2）2年次

2年次は、1年次に引き続き、ドルジェリンパの思想研究をさらに進展させるべく、彼

の代表的な埋蔵宝典（テルマ）の1つである *ITa ba klong yangs* に焦点を当てて、文献学的研究を実施した。

その結果、*ITa ba klong yangs* の所属先を巡って、「界部」、「教誡部」、「大アティ」という3つの異なる立場が存在すること。同書は、『17 タントラ』（*rGyud bcu bdun*）に代表されるニンティック文献群の強い影響を受けていること。同書と *rGyud chen dri med zla shel* が複数の章で逐語的近似を示すこと。両書の近似は、ドルジェリンパと、14世紀の前半から後半にかけて活躍したと思われるシェラプメバルという2人の著名な埋蔵宝発見者の近い関係を暗示しているとも考えられることなどが判明した。

研究成果は、日本印度学仏教学会第67回学術大会（2016年9月3日、東京大学）において、「*ITa ba klong yangs* の一考察」という題目で口頭発表した。なお、同内容の論文が『印度学仏教学研究』（第65号）にて公になっている。

## （3）3年次

チベット仏教を代表する4大宗派のうち、ニンマ派研究は他宗派に比べて、大きく出遅れている。近年、欧米ではようやくニンマ派研究が進展しつつあるが、にもかかわらず、ブータンにおいて当のニンマ派がどう展開したのか、という問題に関しては、思想的にも歴史的にも、ほとんど光が当てられていないのが現状である。3年次は、ブータンに初めてニンマ派の仏教をもたらした学僧であるロンチェンパに改めて焦点を当てなおし、*Theg mchog mdzod* など、彼の思想的代表作の重要箇所を抜粋して翻訳し、それらについて、基盤論・灌頂論・仏陀論の3項目に大きく整理した上で、一冊の書籍として出版した。

また、書籍末尾の付篇においては、ブータンのニンマ派史上に巨大な足跡を残したドルジェリンパの埋蔵宝典として、*Kun tu*

*bzang mo klong gsal 'bar ba'i gsang rgyud chen mo* など 3 篇を取り上げ、それらが、ロンチェンパの思想形成の源泉となった文献群『カンド・ニンティク』(*mkha' 'gro snying thig*) との並行句を多く含み、大きな影響を受けている事実を指摘することができた。

研究成果は、『ニンティクの研究 ロンチェンパの思想を中心に』(千葉: 起心書房, 2017) にて公になっている。

## 5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

安田章紀 「中有に関するドルジェリンパの思想」, 『印度学仏教学研究』64, 2016, pp. 956-961. (査読有)

安田章紀 「ITa ba klong yangs の一考察」, 『印度学仏教学研究』65, 2016, pp. 411-416. (査読有)

〔学会発表〕(計 2 件)

安田章紀 「中有に関するドルジェリンパの思想」, 日本印度学仏教学会第 66 回学術大会, 和歌山: 高野山大学, 2015 年 9 月 20 日.

安田章紀 「ITa ba klong yangs の一考察」, 日本印度学仏教学会第 67 回学術大会, 東京: 東京大学, 2016 年 9 月 3 日.

〔図書〕(計 1 件)

安田章紀 『ニンティクの研究 ロンチェンパの思想を中心に』, 510 頁, 千葉: 起心書房, 2017.

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

## 6 . 研究組織

### (1) 研究代表者

安田 章紀 (Yasuda Akinori)  
京都大学・こころの未来研究センター・研究員  
研究者番号: 40638607

### (2) 研究分担者

### (3) 連携研究者

### (4) 研究協力者